

Nara Women's University

付記資料

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 奈良女子大学附属幼稚園幼年教育研究会 公開日: 2010-07-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 奈良女子大学附属幼稚園幼年教育研究会 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10935/1781

【資料1】 個人ファイル（子どもの姿）の形式

平成16年度「個人ファイル」形式
2004年度 個人ファイル

		幼児名	①
日常生活習慣	身支度 持ち物の始末 用便 食事 など		
好きな遊び	自然 もの ごっこ		
みんなでする遊び・行事など	お話遊び ゲーム ダンス 体操 プール遊び など		
人とのかかわり	教師		
	友達		
自己表現			
その他			

平成元年～15年 子どもの姿 記録形式

年保育	歳児	組	記録者
①	月の子どもの姿	△	月の子どもの姿
②		△	
③		△	
④		△	
⑤		△	
⑥		△	
⑦		△	
⑧		△	
⑨		△	
⑩		△	
⑪		△	
⑫		△	
⑬		△	
⑭		△	
⑮		△	
⑯		△	

平成17年度「個人ファイル」形式
2005年度 個人ファイル

	出席番号	00（半角数字）
	幼児名	ひらがな
	生年月日	2005/1/1（半角）
生活場面での 子どもの姿	日常的な活動	記述順 ①睡眠や食生活など、家庭での生活習慣がわかる場面 ②身の回りの始末 ③社会生活に必要な力（当番活動、片付けなど）
	好きな遊び （自由選択活動）	・好きな遊びを羅列 ・名詞でなくてもよい ・順は決まっていなくても、これまで同様「自然・もの・ごっこ」など、統一すると見やすい 上記の活動での取り組み方について ・めあて ・意欲 ・集中力 ・根気 ・持続 など
	みんなが する活動 （課題重視）	折り紙やプレゼント作りなど（特設コーナーでの活動なども含む） 上記の活動での取り組み方について ・めあて ・意欲 ・集中力 ・根気 ・持続 など
	みんなでする活動 （集団重視）	・学級全体で行うゲームなど ・行事は[誕生日会]などの表記 上記の活動での取り組み方について ・めあて ・意欲 ・集中力 ・根気 ・持続 など
	心身の健康	自己発揮の様子、健康や安全な生活に必要な習慣や態度など
	社会性	・要録にある、「人とのかかわり」の観点より記述 ・表出の仕方などもこの枠に含む ・ルールを守るか、全体の話が聞けているかなど、社会生活における望ましい習慣や態度などの育ちについても含む ・特に教師や友達についての記述は[教師][友達]と表記
育ちの側面 （考察して 見えてくる もの）	基本的技能	・言語、製作、描画、音楽、運動など、教師がその時期に育ちを押しえておきたいものについて記述 ・項目については[製作]などの表記をしておく、見やすい
	感性と表現	
	その他	家庭との連携 ・その期にあったことなどを記述 その他 一言でその子どもを表したいとき、上記以外の特記事項

【資料2】 協同的な遊びの活動経過

(1) ビッグバンごっこ

材料・用具

画紙
切符用の画紙
ペン

画紙
フラッグコーン

シール
かご
切符切り
画紙
ペン

案内係、切符切り係、シール貼り係などを決める

6. 8 (水)

6. 9 (木)

6. 10 (金)

6. 11 (土)

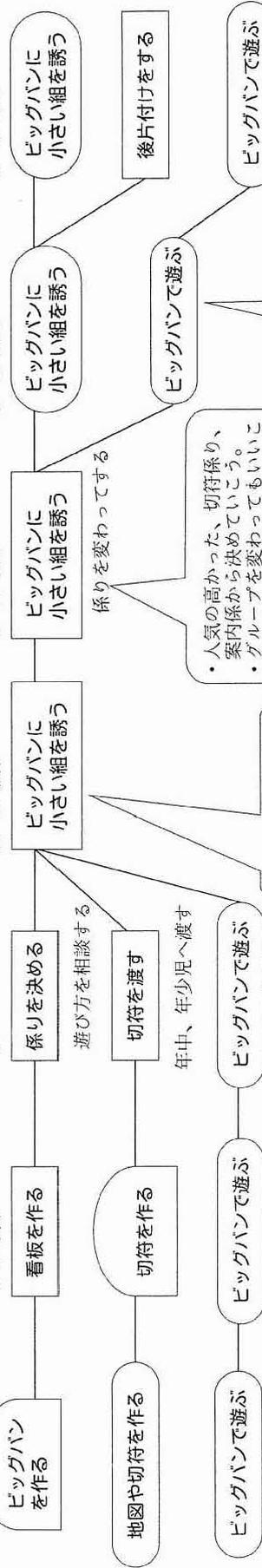
6. 12 (日)

6. 13 (月)

6. 14 (火)

6. 15 (水)

6. 16 (木)



活動の流れ

教師の思い

• まだ完成していないグループに、主に関わろう。
• 地図や切符もできてきたけど、小さい組全員を誘うためには、もっと必要なことを知らせなくてはいけないな。
• 明日は、切符作りのコーナーを作っておこう。
• 最後の点検も必要だな。

• 嬉しそうに、切符を作っていたな。すぐにも誘いに行きたそうだったけど、途中に休みが入らないように週明けから誘おう。子どもにもスケジュールを確認しよう。

• 予想はしていたが、切符切りをしたい子どもが多かったな。
• グループごとに、係りを相談したけど、人数が多いグループは、教師が入らないと、話が進まなかった。4人の昔のおうち、ボールころがしは、子どもだけで相談できていた。
• 切符を渡すのは、とても嬉しそうだったな。

• みんな、とても張り切っているなあ。
• 自分のしたい係りになれなかった子どももいるから、グループの中で交代することも助言しよう。
• 小さい組にもやさしく関わっているぞ。
• 楽しんで遊んでいるな。
• グループの中で、仕事を分担しながら、進められているかな。
• 途中で止めてしまいうちもほとんどいなくなっているな。
• 係りが変わったと言ったから、明日は、係りを変えてみることを提案してみよう。

• 人気の高かった、切符係り、案内係から決めていこう。
• グループを変えてもいいところ、知らないグループができてきてもいいところ、誰かいないかな？
• 人数が少ないところ、いないところ、よかったです。
• 2日間、全体活動でしたので興味なくなってきた子どももいる。明日からは、したい子どもも変えよう。

• 今度は、自分たちが、ビッグバンで遊んでいない場所でも遊んでみるよ。
• 自分だけの遊びをしている子どもも多いなあ。
• しばらくしてから、今日は、どうするのか尋ねてみよう。
• 「またする！」と元気に答えてきた子は、切符切りやシール貼りがたまたまだよ。
• 明日は、片付けなくてはいけないうこと知らせておこう。

• 誘うことにももう飽きたかな、と思っただけ、「今日も放送しよう」と言ってきた。今日で最後ということもあるのだから。
• 放送を聞いて、好きな遊びをしていた子もやっていたな。
• いろいろなグループや係りをしてみたいよ。
• いよいよ片付け。残念そうにしながらも、片付けもまままだ、楽しんで協力して、最後まで片付けられた。自分たちのビッグバン、として親しみ、満足できたよ。

巧技台 ジャンピング フープ
ついたて 大きな布 サッカーゴール枠
ボール紙 画紙 カラーホイル紙 空き箱
牛乳パック ペットボトル 空き容器 色紙
モールド ビーズ 軟質テープ
ビニルチューブ ビニルひも

(3) 1組（年長児）子ども会

日/内容	合奏・歌	ダンス	ゲーム	運動遊び	お話遊び	その他準備
10月～ 12月	・音楽コーナーで電子鍵盤などのメロディ楽器が弾けるようにしておく。	・「エース・オブ・ダイヤモンド」を運動会の親子競技で行う。	・「メディンボール」を2組と一緒にする。	・縄跳び・まりつきを個人別に練習する。		
1月11日 ～14日	・木琴・マリンバを保育室におき、自由に触れるようにしておく。					
17日～ 21日	・音楽コーナーで楽器練習ができるように、個人別めあてカードを用意する。 ・子どもの反応をみて、子ども会で歌えそうな歌を決めて、毎日歌う。	・「エース・オブ・ダイヤモンド」を2組と一緒に踊る。	・日頃親しんでいるしりとりを絵で表す「絵かきしりとり」があることを紹介する。	・それぞれがめあてをもって縄跳びやまりつきに取り組みるように声をかける。	・降園時、お話遊びができそうな本を中心に読む。 ・OHPを保育室に置いておき、自由に映して遊べるようにしておく。 ・劇・人形劇・ペープサート・影絵・映画（OHP）・紙芝居などでお話遊びが出来ることを伝え、やりたいことを決める。 ・決まったグループに分かれて、題材にするお話を決める。 ・グループに分かれて、必要なものを作る。	・子ども会があることを知らせ、楽しみにできるようにする。 ・おおまかなプログラムを子どもと一緒に相談する。
24日～ 28日	・2組と合同で合奏を練習する。 ・個人で楽器練習をする。 ・合奏の曲の階名や、歌の曲を毎日歌う。		・「縄引き」をクラス全体でする。	・縄跳びに全員が取り組む時間を設ける。 ・それぞれがめあてをもって縄跳びやまりつきに取り組みるように声をかける。	・グループに分かれて、必要なものを作る。 ・子どもと相談しながら台本を考える。 ・読み合わせの練習をする。 ＜グループ別活動の様子＞ ・影絵…根気よく毎日自分たちで必要なものを考えて作る。 ・ペープサート…自分の作りたいものをきちんと決めて、喜んで作る。 ・人形劇…始めは人数が多くまとまりにくかったが、必要なものが分かってくると協力して手早く作る。 ・映画…お話に出てくるものを全部作ろうとする。自分で作りたいものをそれぞれ決めて作る。 ・劇…必要な材料を用意しておく、協力して作っている。	
31日～ 2月7日			・ゲームの内容を子ども達と話し合っ て決める。		・グループ毎に舞台練習する。 ＜グループ別活動の様子＞ ・影絵…台詞を録音する。何度か舞台練習するうちに、自然に役割分担ができる。 ・ペープサート…毎日1回は舞台練習する。休んでいる友達役も代わってする。 ・人形劇…自分の役の台詞をよく覚えて、楽しみながら動かしている。舞台裏の小道具を出す役割も代わり合っている。 ・映画…台詞を録音する。実際に舞台練習してみて、作る必要があるもの、必要でないものが分かってきた。 ・劇…自分たちで舞台の準備を喜んでする。楽しんで動いている。	・プログラムの順番や内容を話し合い、決める。 ・プログラムの表紙の絵を書く。 ・進行係の分担を決める。
8日						
9日						

【資料3】 大学および附属学校園カンファレンスの記録 〈一部抜粋〉

— T男（5歳児）の看とり —

日 時：8月12日（金） 9：00～14：00

場 所：附属幼稚園研究準備室

参加者：大学教員・教育システム開発センター 2名

附属小学校 教諭 3名

附属幼稚園 園長・副園長・教諭6名・非常勤講師・教務補佐員

○活動の説明「ビッグバンごっこ」（年長児6月）

年長児担当教諭より、活動について説明。

ねらい・活動を取り上げた理由・活動を通しての学びや育ち（P.43参照）

○VTRを視聴（T男の様子）

ビッグバンごっこ（2日目）の場面。昨日に引き続き、ビッグバンに年中・年少児を招待するために、年長児が遊戯室に集まっている。T男は男児4人とともに、わにグループ入るが、遊びに来てくれたお客さんにシールを貼ってあげる係（シール係）のシールを、A男（仲間の中ではリーダー的存在）が誰がどのシールを持つか、T男を含めた他のメンバーに振り分けている。T男はシール係がしたい様子だが、なかなかシールがもらえず、A男のそばを離れない。どうやらカブトムシのシールがほしい様子。

放送がかかり、お客さん（年中・年少児）が遊びに来て、自分が集めているシールのことが気になり、シールを貼ってあげたり、遊ばせてあげたりすることには気が回らない。

年長担任が、シール係のほかにもワニの口を開けたり、鳴き声を出して驚かせたりする仕事があることを伝えると、ワニの口の係をはりきってし始める。ワニの口を開けて、年中・年少児が口の中に入ると「ガオーー」と言いながら閉めることを楽しんでいる。しかし、しばらくしてふとシールのことを思い出すと、またA男にシールをもらうことに固執している。脅かす役が回ってくると、自分のシールをA男に預けて、ワニのおなかの中につながっている長い筒に向かって、「グオオー、ガオー」と声を出し始める。年中・年少児に楽しんでもらえることを喜んでいるように見える。役を終えてA男のところに戻ると、預けていたシールがなくなっている。残念そうだが、A男に対して強く言うことができない。最後にはA男に「先生にもらったらいやん」と言われて、担任にシールをもらいに行く。シールから離れられないまま、ビッグバンごっこの時間が終わってしまう。

○担任よりT男について

- ・年中の時は落ち着きがなく、骨折・怪我などが重なって室内で遊ぶことが多かった。先生の前では良い子でありたいとがんばりすぎたり、その反動で落ち着きなくはしゃいだりと、気持ちや行動にむらがあった。
- ・年長になると、おにいさんになった自覚を持ちながら、自分の言いたいことを言って、自分のし

たい遊びを十分にできるようになった。

- ・友達関係は、ビデオにも出てくるA男・なかよしのB男を含む大きい集団で遊ぶことが多くなった。A男、B男以外の友達に対しては、自分の意見をはっきり言って遊びを進める姿も見られるが、A男、B男には、認めてもらいたいが言われっぱなしの状態。その中で自分を表現する力をつけて行って欲しい。

○T男の学びや育ちをどう看取るか。

小：（資料を見ながら）よく動き、よく話す子どもだと感じた。だれかとつながりたいのか？ 人間関係に問題がある子なのか？ この子にとってのシールとは？ 自分の意思ではなく、他の人（教師や友達）の作ったルールに乗って行動している。まだ大人の導きが必要な子どもであると感じた。

幼：T男に対する担任の援助は？

担：何か安定するものがないと遊べない姿が日常的にも見られる。前日には切符切りの係りで、中心になって進めていた姿があった。友達にどのように表現するのか？教師が側にいることで、自分の気持ちが言えるのか？ということを考えながら関わる。

幼：大人にはよく話のできる子。興味のあることに動く子。子供同士の関係では十分に出し切れない部分があるが、大人がいることで安定できるタイプではないか？

担：今はA男にアンテナが向いていて、行動がA男に左右されている。ふざけて叩かれることがあるが、へらへらと笑って受け流す。否定して相手に去られることを恐れているようだ。

幼：グループ全員に役割を確認していたら、状況が変わっていたかも。シールとは何だろう？と小学校の先生からの問いがあったが、教師としてあのような活動には、お客さんにシールをはってあげる係があることを当然のように思っていたが、シールがなかったら、全然違う仕事が出ていたかもしれないし、T男の活動も変わっていたかもしれない。

担：シールはすぐに取りれる場所においてある。それでもA男にもらっていたのは、その場で友達と関わっていたかったのでは…。

幼：友達を最優先している？ 小さな葛藤がたくさんあるが、その中で、自分の楽しみを見つけたり、方向を変えたりすることで自分で動ける力を身につけていくのでは。小学校ではグループ活動を細かいところまで話し合っていて決めている？ 行動しながら解決していく幼稚園と、十分に計画して話し合っていて決めている小学校との違いがある？

小：T男がどれだけ強い願いを持って幼稚園に来ているのかが大事。譲らなければならない場面は必ず出てくる。譲る・調整する育ちも大切。ただし、従属になってはいけない。一人の子の願いだけが通るのではなく、グループ活動の中でどうみんなを生かすか。

小：グループの決め方は？

幼：友達の影響で決める子もいれば、友達と話し合っていて決める子、自分がしたいことで選んだ子など、いろいろ。

小：グループができていて活動を決める方法と、活動からグループを決める方法がある。子どもには後者のほうが合っているように思う。

幼：グループによっては、なかなかまとまらなかったり、協力することが難しいグループもあった。

小：グループで協同活動することにはどんな意義があるのか？ T男は、依存心が強い子どもと感

じた。他の子どもに依存することで幸せを感じるのだろう。人が集まると必ず上下関係ができる。友達の顔色を窺いながら合わせていける子がいてもいいのではないか。1年生で教師が適当に分けたグループで劇をしたことがある。しっかり者が集まったグループは早く決まる。おとなしい子が集まっているところは、なかなか決まっていけない。その中でも発言できそうな子がリーダー的役割になると、動き出した。人にはそれぞれ個性がある。T男はシール係から離れたほうがよかったのか？ それでT男は幸せだろうか？

幼：その子が前に出ないことを不満に思っていないのなら、それでいいのかもしれない。T男はどう感じているだろう？

担：他の子（A男以外）に対しては、自分の意見を言えるので、そういう力を持っているはず。もっと出して欲しいと教師は思っているが、子どもたちの社会なので、見守っている。明らかによくない関わりが見られるときには援助する。

小：いろいろなケースによって、不満や葛藤もでてくる。友達との関わりや活動の中身によって違うのでは？ 上下関係でなく内容を重視するために、2人以上集まる時には丁寧な言葉で話すよう、名前を呼び捨てにしないよう指導している。

幼：呼び捨てにしない、ということは大切なこと。外見や声の大きさなどで上下関係を作ってしまうことがある。

担：教師と子どもということで少し距離をおいて、子供同士の社会を尊重するよう心がけている。公私の区別がついてきた。

幼：なかよしの友達だけでなく、いろいろな子どもと関わる機会を持つことで、意図していろいろな考えを持つ友達と関わり、広く理解していくように心がけている。

小：小学校でもそう。学習の場ではなかよしの子とはグループは作らないようにしている。不満・葛藤は出て当たり前。不満や葛藤を避けるのではなく、小さいころから経験して、本気の活動の中で人間関係を作ることが大切。大人が口を出すことで失敗することも多い。黙って見守っていると、子どもが解決していく。

大：日ごろの仲間関係に対して、シールを持つことで駆け引きしている。グループで活動する時には必ず上下関係が発生する。その時に子どもたちがどう対応していくか。それに応じた教師の関与の仕方 ①ほうっておく ②助言する ③気づかせる ことで、上下関係を壊す契機を作る。日ごろの力関係を壊すためにグループの作り方を考える。

大：活動の中身か、それに関わる関係の作り方か、どちらの方向からその子をとらえるか。仲間関係があるから活動に向かう・活動に向かうことで関係を作る 小学校では後者が多いが、幼稚園では両方あるだろう。

前日、当日の活動を見ていたが、T男は、前日には切符切りの係りで他の友達の分までとるくらいアクティブに動いていた。ビデオの日とは落差がある。この時、「居ざるを得ない場所」でT男なりの工夫が見られる。これは、小学校に上がるについての必要な場面。子どもなりに工夫して自分の居場所を作っていく。位置とり・過ごし方・やり過ごし方の工夫ができるから、小学校で過ごしていける。

○個人ファイルについて

○公開保育研究会について

活動の記録 —「ビッグバンごっこをしよう」—

ねらい

- 友達と協力して、ビッグバンを作ることを楽しむ。
- 経験したこと見たことをもとに、イメージを広げる。
- 友達と遊び方を相談したり、イメージを伝え合ったりして遊びを進める。
- 自分たちが作ったビッグバンに、年中、年少の友達を誘うことを喜ぶ。

活動を取り上げた理由

5歳児のこの時期になると、なかよしの友達と遊び方を相談したり、ルールを決めたりして遊びを進めていく姿が見られるようになる。また、クラスみんなで、ゲームや合奏、ダンスなどをするのも全員が喜んで取り組むようになる。楽しい遊びを思いつくと、すぐ放送で知らせて、年中・年少児をお客さんに呼ぶことも大好きである。一方で、遊ぶ友達が固定化していたり、いつも同じ遊びを選んでいる子どもも少なくない。遠足での経験を生かして、友達と相談したり協力したり、役割を分担したりしながら、5歳児みんなが共通のイメージを持って活動する楽しさを経験させたいと思った。更に、この活動をすることでいろいろな友達と関わったり、遊びへの興味が広がったりするきっかけができるのではないかと考えた。

活動を通して学んだこと、育ったこと

1. 経験したこと、見たことをもとに、イメージを広げる。
2. 友達と一緒に、一つのものを作る楽しさを感じる。
3. 自分が経験したことを、自分で再現することに期待し、楽しむ。
4. みんなで力を合わせて、準備や後片付けをする。
5. 大勢の友達とイメージを合わせて遊ぶ楽しさを感じる。
6. グループの友達や同じ場にいる友達に、自分の思いを伝え、相手の話も聞く。
7. 仲良しの友達以外の友達と関わって、遊びを進めていく。
8. 年中・年少組の友達が、楽しく遊んでくれたことを喜ぶ。
9. 年中・年少児の友達に、思いやりを持って接する。
10. いろいろな材料の特質を知ったり、用具の使い方を知ったりする。

附属幼稚園参観の感想

附属小学校 金津琢哉

1. 観察児童

出席番号10番にしのたくみ君（以下⑩と表記）に注目した。

2. 直感的な把握

⑩の姿を見たのは、運動場の飼育小屋付近からだった。飼育小屋から砂場まで、あっという間に移動し、そこで落とし穴を掘っている。砂場での発話量は多く、しかも、体を動かしながら話している。（動きのある子だなあ。勢いのある子なのだろうか。どうしてこの子が選ばれたのだろうか。）等と考えが浮かび、興味を持った。

選ばれた理由を恣意的なものと仮定して、自分なりにあれこれ考えてみた。（附属幼稚園の先生方には申し訳ないが、私はこうした遊びが小さい頃から好きで、観察の目的を忘れて時々とりとめのない想像をしてしまう。）

「動きの多い子だから観察しやすい。言語表現量も、ある程度あった方が観察しやすいだろう。ひょっとして何か問題を抱えている子なのかもしれないな。よくお話ししているが、人と関わりたいのかな。この子の育ちの中で、人と関わろうとせざるを得ない事情があるのだろうか。」

以上のように直感的な感想を持って観察に臨んだ。

3. 印象的な場面

⑩の動きを追って、いくつかの印象的な場面に出会った。

(1) なぜ移動するのか

砂場に移動してきてから、バケツをひっくり返して、いす代わりに座っている⑬の近くにいる。松田Tの「バケツなしでも座れるかな。」（砂を台形に盛り上げて、その上に座れるかどうか。）という誘いかけに、⑩も⑬も応じなかった。

⑬は、ずっとバケツに座っている。そのうちに足を前後に滑らせるように砂の感触を楽しみはじめた。ふと、砂の中から何かを拾い上げて、「カタツムリや。」とつぶやいたように聞こえた。⑬は、カタツムリの殻のようなものももっと出てくるかもという期待からか、さらに足を勢いよく前後させるのだった。

こうした⑬の動きに対して、⑩はスコップを持って穴掘り、松田Tの周りを移動、穴の中に水を入れるのを喜んで見るなど、その行動はひとつところに留まらない。スコップで穴を掘ってそこへ水を入れるように話していたのに、次の瞬間にはスコップを放って自転車置き場へと、⑥の「自転車で遊ぼう。」の声を追いかけるようにしてさらに移動した。

なぜ⑩はこれほどに流動するのだろうか。物や事柄に執着することがなく、外界と自分とをつなぐ体験という足場が希薄な子なのではなかろうか。ただ何かしなければならぬ雰囲気を追いかけて

て他の子の言葉に流されて過ごしているのではないか。

⑩の流動する姿から、以上のような疑念を持った。

(2) 安定した表情

⑩は、確固とした表情をして遊べてはいないように見えた。熱中して遊ぶ子には、何か張りつめたような勢いを感じる人が多いのだが、⑩にはそれが感じられなかった。遊びに喜びを見出していないようにさえ見えた。

ところが、教室で見た表情に「おや。」と思えた。それは、副園長との対話の場面だった。副園長が、「今日、何をして遊ぶの。」と問いかけたように見えた。その時、「昨日、切符切るって言ってた。」と、答えた表情は実に生き生きと安定していた。「やることわからん。」と言う言葉さえ、どこか嬉しそうな表情と響きがあった。

これから始まる集団活動への期待なのか、副園長との安定した人間関係によるものなのか、とにかくこの場面は私にとって「はっ。」と印象に残るものだった。

(3) 切符切りを諦める

集団活動が始まって、「切符切り」を希望する人数が多すぎるのが話題となった。⑩も「切符切り」を希望して手を挙げていた。Tの「希望人数が多すぎるから、他にどんな仕事があるかな。」という働きかけに対して、いったん手を下ろした。その後、列の後ろの方に歩いて行って座り、座っても手を挙げていた。しかし、そのうちに手を下ろしてしまった。

⑩は、「切符切りをする」と、漠然としたイメージを持っていたのではないか。しかし、具体的にどのような活動をしたいのか、あいまいだったため、副園長には「やることわからん。」という言葉になったのではないか。はじめ勢いよく「切符切り」に手を挙げ、Tによる＜活動の具体を考えさせる働きかけ＞によって、手を下げてしまった姿から、上記のような⑩の集団活動に対する追求の姿が浮かび上がるような気がする。

「切符切りをする」と勢いよく手を挙げていた⑩は、一見安定しているように見えるが、それは活動の方向を漠然とさせたままの一応の安定であった。それが、Tの働きかけによって今日何をするか、あらためて考え直さざるを得なくなり、不安定な状況に陥っているのではなかろうか。この不安定な状況におかれて、⑩は、いったいどのような追求を見せるのだろうか、いよいよ興味が増してきた。

(4) 教師より周りの子を見ている

「切符切り」を諦めたあと、いくつかの仕事が松田Tから示される。ところが、⑩は、松田Tの投げかけた言葉には、直接反応していないように見えた。「バスの運転手」「ワニ」と、活動への誘いかけが続く。⑩の手は、耳のところまで上がり、しばらく周りの子を見て躊躇したあと、手が上まで挙がった。

遊戯室に入ってから、Tの言葉をよく聞いているように見えた⑩であったが、「切符切り」を

諦めてからは、Tよりも周りの子を見ていることが多くなったような気がする。⑧⑥⑭の存在が、この子にとっての判断のよりどころ、安心感のよりどころとなっているのかもしれない。

中でも、⑥を見ていることが多いように見受けられた。見るだけでなく、⑥にさわりたいがっているようにも見えた。⑥が「シール貼り」を選び、⑩も「シール貼り」を選ぶ。⑥の動きを見て、⑩も「シール貼り」に何となく参加する形となった。

「シール貼り」では、①が順番を取り仕切っているようだ。①は、Tのアドバイスを「あ、そやな。」と素直に受け入れる。Tのアドバイスを素直に受け入れられる安定した①であれば、一緒にいて⑩も安心できるだろうなと感じた。

(5) ワニの口を開け閉めする役割

⑩は、「シール貼り」の仕事をひんばんに移動しながらしているうちに、ワニの口を支えて、人の出入りに合わせて動かす役割を見つける。このとき、この子にしか見つけられなかった、この子ならではの、この子だけの役割が生まれたのではないかと、見ている私もうれしい気持ちになった。

⑩は、右手でシールを持ち、左手で口を開け閉めしている。シールの仕事も捨てず、新しいワニの口の仕事を確実にするというバランス感覚が、⑩らしさではないかと思う。ところが、シールを落としてしまい、それに気づいて拾おうとして、ワニの口が開きすぎてしまう。

その様子をとらえた⑭が、すかさずおもしろい仕事を引き受けた。しかし、⑭の仕事ぶりは、シールをもたず、両手でワニの口を開け閉めするのに専念したところは良かったが、人の動きを見て、動作を省いていったのだった。しまいには、ぶつからないように大きく口を開けたまま、右手で支えるだけになる。一緒にいる子と何かおしゃべりをしながら、どんどんと作業を省力化していくのである。これまた⑭特有の対応の仕方なのだろう。

一方⑩は、ちょっとしたきっかけから「ワニの口」という仕事を失い、失職の原因となったシールをしばらくかまっていたあと、ピアノの下でワニの声を続けて出すようになった。この発声には勢いがあり、今までのどちらかというに従属的に活動を選び取ってきた姿との落差に少なからず驚いたのだった。

(6) 副園長とは目が合う

ちょうどこのとき、副園長と出会い、目と目を合わせて何か話していた。副園長以外の人と目を合わせて話す場面を、全く見る事がなかったので、どうして副園長とは目と目が合うのか不思議に思った。

(7) この子にとっての「シール」の意味

そのうち、⑩は⑭と一緒にワニの口を支えるようになる。⑩の手にはシールはなかった。⑭にワニの口を任せて、自分はワニの口の中に入って行く。出てきてから、①と⑥のシールを見て、二人に入っていけず離れていった。どこへ行ったかと思いに思っていると、⑩はシールを取りに行ったのだった。

ワニの口を開け閉めし、ワニの鳴き声を出す活動をしているとき、今日一番の明るい表情と、活発な動きを見せてくれた。ところが、それは長続きせず、結局「シール」に戻ってきてしまった。

私の観察は、ここまでである。最後に、⑩にとっての「シール」の意味はいったい何だったのだろうかという疑問が心に引っかかり、長い階段を上っていったのだった。

4. 考 察

7つのエピソードから、この子の追究の核を仮定する。一面的、部分的な把握になるだろうが、何らかの参考となれば幸いである。

【人の創り出した流れに乗って自己実現を図ろうとする。】

ワニの口にしても、切符切りにしても、この子が真に熱中する活動ではないように思える。ワニの口の仕事を運び取った当初は、確かに勢いが増した。けれど、それは持続しなかったのである。だとすれば、この子にとって、ワニの口を開け閉めする仕事は、どうしてもしたくてたまらないというようなものになり得ていないのである。

この子は、人と関わろうとすることで、安定を求めようとする経験を繰り返してきているのではないかと思う。「人と関わる」と言っても、対等な立場で影響を及ぼしあうのではなく、友だちの決断に一時的に乗っかって、まるで試用期間のように活動するのである。友だちの活動に乗っかって自分を動かすうちに、偶然、比較的興味を感じられる仕事が見つかった。自分で見いだした活動であれば、一時的な勢いが生まれる。勢いは観察でも確かに高まった。だが、このような偶然に左右される「生き方」に、この子は本心から満足しているのだろうか。

【安易な同調ではなく、本当にしたいことを大人の導きを得て発見させたい。】

とことん熱中できる何かが見つからない場合、この子のように流動するのではないのだろうか。

副園長が登場すると急に生き生きとなる表情から、大人との関係の結び方に安定感をもてるこの子の現状が垣間見えた。この子の家庭環境はどうか。祖父母はいるのか。この子はいったい何を願っているのだろうか。そういった情報をこの子から引き出しながら、もっと大人との一対一の関係性の中でこの子の中に力強く育まれる資質があるのではないだろうか。

もっとこの子の情報があれば、生活背景やいくつかのエピソードをつないで、その子らしさ（個性）を言葉化することができるだろう。ほんの短い時間の観察からの考察なので、思いこみや誤りが多々あるだろうと思う。

こんな見方（評価方法）もあるのだというひとつの例としてご検討いただけたら有り難い。

「遊びの中で子どもが学ぶこと・育つことを考える」より

附属小学校 岩井 邦夫

(1) 保育内容「ビッグバンごっこ」の設定

遠足の目的地をビッグバンにし、事後「ビッグバンごっこをしよう」と園児に誘いをかける意図的な保育活動である。遠足で楽しかったことや面白かったこと、印象に残ったことからイメージを膨らませて活動するので、アイデアが生まれやすいと思われる。子どもらしい発想、子どもでしか思い浮かべない遊びや製作・遊び方を思う存分出し切れるように援助してやりたい。子どもの思いを十分に生かしてやるための、教師の影・裏での働きが大切である。

(2) 異年齢の交流の積み重ね

五歳児になり、自分たちが年中・年少児の頃、年長児に遊びに招かれた時の体験が生きてくる。遊び方や道具・用具の使い方、遊び場の作り方、お客さんの招き方等の活動は、年齢を越えた交流の中からより一層深められ、幼稚園内のなかよしの伝統となり、友愛活動が意義あるものとなる。

(3) 抽出児の選定

今回、T男を抽出児として研究対象にされていたが、どのような理由で採り上げたのだろうか。研究目的に合う子どもなのであろうか。組内で一番弱い立場にある子どもや問題を抱えている子どもを研究対象としていかれることを期待したい。

(4) 友達形成

最近では、少子化で兄弟で遊べない一人っ子も多く、近所の子と群れて遊んでいない子や室内遊びばかりで友達と外遊びをしていない子、親同士が仲良くてその子と遊ぶ子も多い。だからこそ、幼少期に多くの友達（気の合う子とだけでなく、男女関係なく、能力も混成して、力関係の序列も越えて…）と交流して、一緒に遊ぶ活動を豊富に体験させたい。子どもは、先生に教えられること以上に、友達の学びを見て学んでいくことが多い。人間形成に欠くことのできない友達関係からの学びが、どのようにして形づくられるのか研究したいところである。

(5) 友達とのかかわり

学びとしてのグループをつくる場合、普段一緒に遊んでいない子や気の合っていない子と同じグループになって遊ぶ機会が多くなるようにしたい。そうすると、子どもの中に衝突や不満・不平・葛藤・抵抗がたくさん生まれる。それらができるだけ出ないようにするより、多く出る場面をつくってこそ、子どもたちに本気の活動が生まれ、そこで人間関係が築かれていく。

(6) 看とりとは

保育における「看とり」の言葉の意味・定義を明らかにしておきたい。一人ひとりの子どもの育ちを看とるということは、まず32人いれば32通りの学びがあり、一人ひとり違ってあたりまえ、そのままでもいいという構えが必要だろう。一人の子どもを看とることは、結局、教師自身の子どもの見方・とらえ方・対処の仕方を振り返り、これでよかったのかと推し量っていく営みではないかと思う。一人ひとりに処方箋があり、同じような症状にもその子・その時・その場にあった対処の仕方があると、教師の感性が研ぎ澄まされていくことだと思う。

(7) 記述評価は

文章で記述評価することは、記録に残るだけに人間として責任が重大な営みだと思う。先入観や思い込み・思い違いが入りやすいだけに、その子の発言や行動・態度・心情などの事実を観察から正当性・妥当性を考えて、具体的に記述しなければならないので大変な仕事だと思う。評価は結果ではなく、次に保育に生きて働くように子どもに返したい。

(8) 個人ファイル項目は

子どもの姿を記述する場合、一見して2004年度版の方が具体的に記述しやすく読みやすいと思う。2005年度版の改訂版は、子どもの生活場面や育ちの側面の項目立てが整理されすぎていて、すべて網羅して具体的に記述しにくい面があり、また、その子らしさが見えにくくならないかと思う。項目数が多くなると大変である。その子らしさがよく表れた場面に絞って記述するとか、このことだけは全員に記述しようと重点項目を整理していけばよいのではないかと思う。その子の育ちや学びを看とることで、保育に生きる評価項目のあり方を検討したい。